

(1) 桑原区・奴田場区デマンドタクシー実証運行の本格運行への移行について(協議)

1 協議事項

実証運行を行ってきた「くわ里号・ぬたタク」について、事業の評価を行い、令和7年9月から本格運行へ移行したい。

2 試験・実証運行期間

試験運行 令和3年12月から令和4年2月まで

実証運行① 令和4年10月から令和5年3月まで

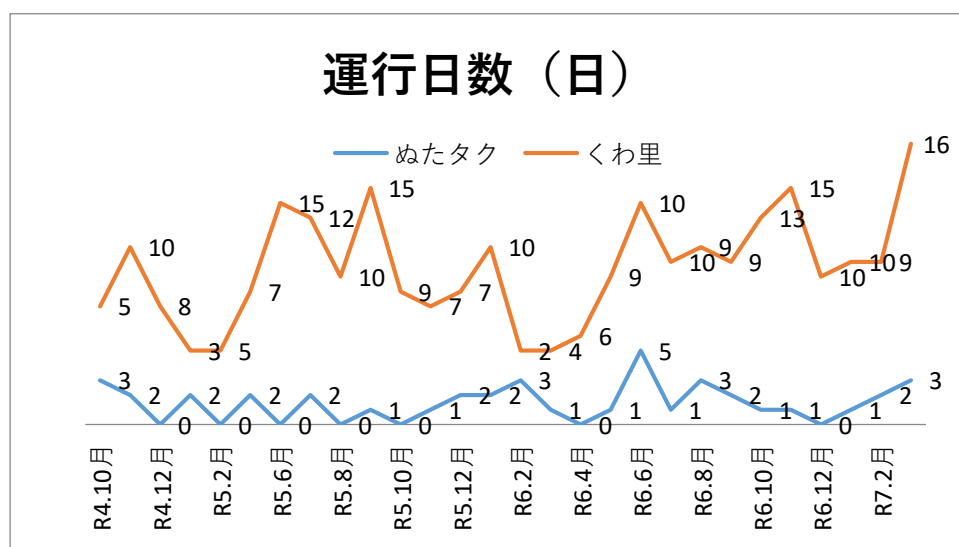
実証運行② 令和5年6月から令和6年3月まで

実証運行③ 令和6年4月から令和7年8月まで

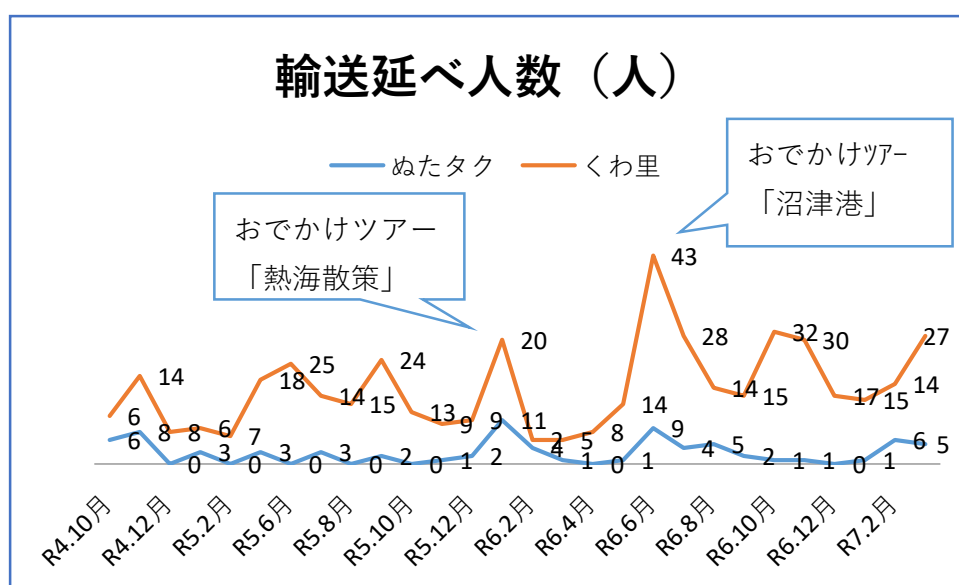
3 事業内容

実施目的	交通空白地である桑原区及び奴田場区における高齢者を対象に移動支援を実施し、社会参加による介護予防と生活支援に寄与する。
実施主体	函南町
利用対象者	桑原区又は奴田場区在住の65歳以上の方（対象者の付き添いの方）
運行地区	桑原区及び奴田場区
乗降場所	利用者自宅、函南駅、山口医院、桑原公民館（くわ里号のみ）
運行日	毎日
運行便数	10便（往復20便）
運行事業者	函南タクシー株式会社
車両	セダン型タクシー（利用可能人数4人）
運賃	利用者（付き添い含む）一律300円、乗合の場合200円
利用方法	福祉課に会員登録し、タクシー会社の専用電話に、利用便の1時間前（帰りは30分前まで）に電話予約する。

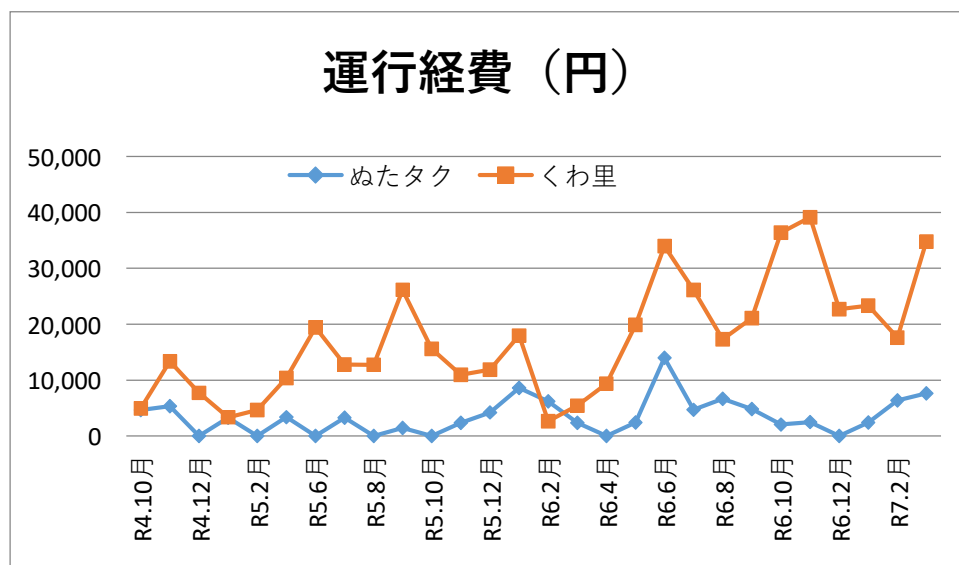
4 実証運行の実績（令和4年10月～令和7年3月）



- ・ 運行日数は、くわ里号は月最大 16 日、ぬたタクは月最大 3 日となっている。



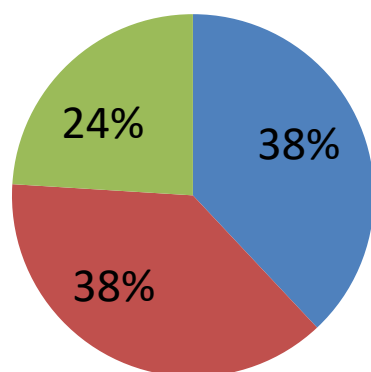
- ・ 桑原区、奴田場区の住民による、地域の支え合い勉強会において、利用促進のため「おでかけツアー」を企画・実施した月は、輸送延べ人数が増加している。
- ・ 函南駅着の利用と比べ、函南駅発の利用回数が少ない結果となった。
実証運行期間に、函南駅発のデマンドタクシーの予約時間を 1 時間前から 30 分前までに改正したが、くわ里号、ぬたタクとも、函南駅発の便を利用する対象者が少ない結果となった。



- 令和5年9月25日、タクシー運賃の改定がありメーター運賃が高騰し、運行経費が上昇している。
- 運賃の支払いは現金が主で、80歳以上に交付している福祉タクシー等利用券の利用は、令和6年度、くわ里号で2回、ぬたタクで1回となっている。

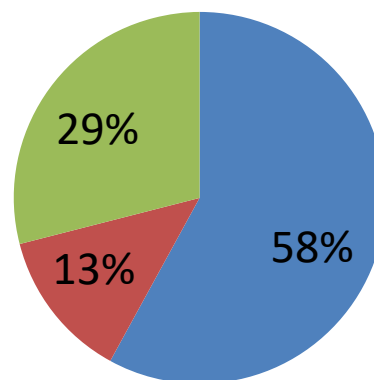
ぬたタク 行先

■ 函南駅 ■ 山口医院 ■ 自宅



くわ里号 行先

■ 函南駅 ■ 山口医院 ■ 自宅



- ぬたタクの利用は「函南駅」と「山口医院」が同程度であるのに対し、くわ里号では「函南駅」の利用が多い結果となっている。

<桑原区、奴田場区 各地区住民の意見>

令和 7 年 5 月、桑原区、奴田場区各地区の住民による地域の支え合い勉強会が開催され、町から利用実績の報告を行った。また、利用や生活状況に関しての聞き取り及び、本格運行に移行した場合の負担金について確認を行った。

- ・ 日常の通院や町内スーパーへの買い物は、徒歩や公共交通機関の利用では困難であるため、やむを得ず自家用車を運転しており、免許返納ができない。
- ・ 食事、観劇、観光、理美容室の利用などの外出は、デマンドタクシーを利用することで、家族の運転に頼らず外出できるため、外出の選択肢が増えた。
- ・ 大場函南デマンドタクシーを利用し、スーパーへの買い物や文化センターや図書館を利用したいが、交通費が高額になる。
- ・ 運転が不安だが、デマンドタクシーを活用することで、不安を抱えながら運転する必要がなくなると期待している。
- ・ 函南駅から J R を利用して、三島駅、沼津駅、熱海駅などに外出した方が、交通費の負担が少ない。
- ・ 函南駅から J R を利用して外出することが多い。楽しみのための外出に利用している。
- ・ 山口医院への通院に、定期的に利用している。
- ・ 運行経費については、総額の 3 分の 1 を、利用者の運賃収入と各自治会による支出金で負担する。

5 事業評価

(1) 直近 3 ヶ月（令和 7 年 1 月から令和 7 年 3 月まで）の実績

①くわ里号

主な指標		実績値	目 標	達成度
利用状況	登録者数(65 歳以上 252 人)	92 人	75 人 (30%)	○
	延べ利用者数	56 人	46 人	○
	乗合率 (人数/台数)	1.14	1.3	×
費用効率	収支率	21.6%	30%	×
	一人当たり経費	1,287 円	2,000 円以下	○
	一台当たり町負担額	1,185 円	1,700 円以下	○

②ぬたタク

主な指標		実績値	目 標	達成度
利用状況	登録者割合(65歳以上60人)	21人	18人(30%)	○
	延べ利用者数	12人	11人	○
	乗合率(人数/台数)	2.0	1.3	○
費用効率	収支率	22%	30%	×
	一人当たり経費	1,522円	2,000円以下	○
	一台当たり町負担額	1,222円	1,700円以下	○

(2) 実証運行期間中の取組 (令和4年10月から令和7年3月まで)

- ・ 桑原区、奴田場区にアンケートを実施し事業の見直しを行った。
- ・ 桑原区、奴田場区の住民による地域の支えあい勉強会で、利用の促進について協議を行った。ダイヤ改正、予約時間の変更、乗降場所の追加、会員登録の推進、予約方法の確認や、外出先・利用方法についての情報交換などを継続して行っている。

①令和4～5年度の取組

- ・ 運行日を平日以外に土日・祝日を追加
- ・ 湯～トピアかなみ無料バスや函南駅のバス発着時間に合わせてダイヤ改正
- ・ 利用の多い午前中を中心にダイヤ改正
- ・ 帰りの便の予約時間を1時間から30分前までに改正
- ・ くわ里号、ぬたタクを利用したおでかけツアーを企画・実施

②令和6年度の取組

- ・ 大場函南デマンドタクシーの函南駅発着時間に合わせてダイヤ改正
- ・ 乗降場所(桑原公民館)の追加
- ・ 桑原区、奴田場区にて電話予約のシミュレーション実施
- ・ 高齢者の運転免許保有率が桑原区72.2%(72人中)、奴田場区53%(15人中)のため、登録目標を桑原区40%、奴田場区50%から、いずれも30%に下げた。

(3) 事業評価

- ・ 直近3ヶ月において、くわ里号は、乗合率、収支率以外は目標を達成している。ぬたタクは、収支率以外は目標を達成している。
- ・ 高齢化が進んでいる地域であり、介護予防と生活支援の観点から実証運行と同様、65歳以上を対象とし、運賃や運行ルート等は維持し、本格運行に移行したい。
- ・ 本格運行にあたり、運行経費の一部は自治会に負担していただき、介護保険事業の介護予防のための交付金を活用し継続したい。
- ・ 令和6年度の利用実人員は、くわ里号が34人、ぬたタクが9人となっている。今後、事

業の周知に努め、会員登録数や利用者を増やし、地域高齢者の外出機会の増進に努める。

- ・ 本事業を行う契機となった、地域の支え合い勉強会における聞き取りにおいて、住民からは、将来に渡り事業継続したい意向が強く聞かれた。
- ・ 本事業を行うことで、公共交通機関へのアクセスが困難で、外出機会が少なくなりがちな地域に住む高齢者が、函南駅などからＪＲを利用して自ら外出を企画し、生き生きと過ごす現状が見られた。また、健康的な生活に欠かせない、受診や買い物に利用する対象者も見られた。
- ・ 気軽に遠出することが難しい地区に住む高齢者の外出機会が増え、社会参加等の機会が確保されることで、健康に生き生きと過ごすことができ、ひいては地域全体の活性化に寄与すると考えるため、これまで積み重ねてきた実証運行の結果を踏まえ、本格運行に移行することとしたい。